オスマン帝国に関する国際シンポジウム・講演会・史料展示会

早稲田大学イスラーム地域研究機構トルコ研究班は、2017年9月30日（土）および10月1日（日）、トルコ共和国から3名の研究者をお招きし、国際シンポジウム、講演会、史料展示会を開催した。

大隈記念タワーを会場とした初日の講演会では、メフメト・メルト・スナル氏（イスタンブル文明大学）、セルチュク・アクシン・ソメル氏（サバンジュ大学）、ウール・ユナル氏（首相府オスマン文書館）が登壇し、オスマン史研究の最新の成果を披露した。近代の軍事史を専門とするスナル氏は、常備歩兵軍であるイェニチェリの歴史を概観したうえで、セリム3世（在位1789-1807）およびマフムト2世（在位1808-39）による軍制改革について論じた。近代の教育史を専門とするソメル氏は、アブデュルハミト2世（在位1876-1909）の時代には、M. ウェーバーの言う「支配の三類型」（伝統的支配、合法的支配、カリスマ的支配）のすべてが見られると指摘した。近代の軍事史と教育史を専門とするユナル氏は、自身が館長をつとめる首相府オスマン文書館について紹介した。日本のオスマン史研究者など28名が参加した質疑では、トルコおよび周辺諸国における史料保存の取り組みなどが議論された。



写真1　講演会には、九州や関西からもオスマン史研究者が集結した。本学の学部生や大学院生も参加した。



写真2　講演会と史料展示会。左から、M.M. スナル氏、三沢伸生氏、U. ユナル氏、鈴木董氏、小松香織氏、長谷部圭彦、S.A. ソメル氏。

舞台を小野記念講堂に移した2日目は、国際シンポジウム「近代オスマン帝国の軍事と教育」が開かれ、上記の三氏に加え、松尾有里子氏（東京大学）と長谷部圭彦（早稲田大学）が報告した。まず小松香織氏（早稲田大学）による趣旨説明において、本シンポジウムは、「国民」を創出するうえで重要な役割を果たした軍事・教育・福祉を扱い、本年度は前二者について議論することが明確にされた。続けてスナル氏は、セリム3世期およびマフムト2世期における軍事教練書について、ユナル氏は、タンズィマート期（1839-76）に人頭税に替えて非ムスリムに課された徴兵免除税について、ソメル氏は、タンズィマート後期におけるムスリムの私立学校について、それぞれ報告した。そして松尾氏は、ウラマーの名家であるエブースード家の、近代における子女の教育を、長谷部は、タンズィマート期に公布された公教育法（1869）と明治日本の学制（1872）の比較史を、それぞれ論じた。オスマン史だけでなく、日本史やドイツ史などの研究者総勢33名が参加した質疑では、英語だけでなく、日本語、トルコ語、さら



写真３　国際シンポジウム。左から、U.ユナル氏、M.M.スナル氏、S.A.ソメル氏、松尾有里子氏、長谷部圭彦。



写真５　史料展示会。オスマン帝国と日本の関係に関する、オスマン語やフランス語や日本語の古文書35点が、ポスターのかたちで展示された。



写真４　国際シンポジウムには、オスマン史の研究者だけでなく、日本史やドイツ史などを専門とする研究者も参加し、比較史的な議論が活発に行われた。



写真６　会食（於東京穆斯林飯店）。シンポジウム終了後、ハラールの中華料理を頂きつつ、今後の共同研究などについて話し合った。

にはドイツ語も飛び交い、軍事改革の経験がどのように教育分野に応用されたのかといった問題が検討された。

こうした講演会と国際シンポジウムに加え、会場では史料展示会も開催された。これは、トルコ共和国首相府オスマン文書館に収蔵されている膨大な史料のうち、オスマン帝国と日本の関係史に関するもの35点を選び、ポスターのかたちに仕上げ、日本語とトルコ語のキャプションを付して展示したもので、たとえば明治天皇がアブデュルハミト2世に勲章を贈呈した際の親書や、エルトゥールル号の遭難を伝える電報などが紹介された。「オスマン・日本関係小史」と題する小文も日本語とトルコ語で配布され、各文書史料が一つのストーリーのなかに位置づくよう配慮された。

また、本展示会で閲覧に供された史料は、関連する日本語の文書史料などとともに、以下の冊子にまとめられた。ご希望の方は、本機構までご連絡されたい。

長谷部圭彦、三沢伸生、シナン・レヴェント編『オスマン帝国と日本――トルコ共和国首相府オスマン文書館所蔵文書に基づく両国間関係』東洋大学アジア文化研究所、2018年。

連絡先：islam-info@list.waseda.jp

本展示会は、ユナル氏が首相府オスマン文書館の館長に就かれているため実現したものである。また、史料の選定、キャプションの作成、そして上記の冊子の制作にあたっては、三沢伸生氏（東洋大学）の全面的な協力を得た。ここに記して感謝したい。

長谷部圭彦
早稲田大学イスラーム地域研究機構　次席研究員